



オランダ出張記

1. はじめに

今年の5月に、クライアントの要請により、クライアントの年次総会参加のためにオランダに出張してまいりましたので、出張の様子やそこで感じたことをお伝えしたいと思います。

2. アイントホーフェンにて

アイントホーフェンは、人口1万人あたりの特許数が世界で最も多い「発明都市」といわれているようです。弊社クライアントの他、フィリップスなどの本社もあります。



アイントホーフェンの街並み

クライアントが実施する年次総会では、クライアントの要請により、クライアントが使用している各国の代理人が集まり、プレゼンやワークショップが行われます。参加人数は90名弱でした。中国や韓国の代理人の英語のプレゼンが上手だなと痛感しました。年次総会には過去に何度か参加したことがありますが、そのたびに海外の代理人からいい刺激を受けます。

今年の年次総会で最も印象的だったことは、クライアントの知財部長の送別会が組み込まれていたことです。送別会では、知財部長にお世話になった社員の方々が挨拶し、最後に贈答品を渡すセレモニーがありました。周りの方々とお話から、知財部長が周囲の方々からとても尊敬されていたことが伺えました。私自身もTMIに入所しこのクライアントを担当することになってからずっとこの知財部長にお世話になっています。この知財部長は、常々、社内のアトニーと、各国の代理人とのコミュニケーションが上手くいっているかを気にかけていたようです。知財部長は、この年次総会の週を最後に退職されるということでした。このような送別会に、日本の代理人の一人として参加することができ大変感慨深いものがありました。



知財部長の送別会の様子

本社内で送別会を行った後に、そのまま外部にあるレストランでの懇親会に移り、懇親会は22時過ぎまで行われました。この時期のオランダは、明るい時間が長く、22時過ぎで

も比較的明るいのが特徴です。この日は、朝8時半から年次総会が始まり、懇親会が終了したのが22時過ぎでしたので、なかなかハードなスケジュールでした。



懇親会の様子

3. デンハーグにて

懇親会の次の日は、その夕方に日本に帰国するだけの予定だったのですが、急遽、デンハーグにある法律事務所を訪問することになりました。デンハーグといえは、意匠のハーグ協定に使用されている地名です。

我々の訪問が急遽決まったのにもかかわらず、現地の法律事務所は、会議後にランチを招待して下さいました。会議中での現地代理人による自身の事務所を（決して押し付けるわけではないもののきちんと）アピールする姿勢や、ランチ中での我々に対する御もてなしには私自身見習うべき部分が多くあったように思います。

我々の訪問を対応した現地の代理人3名のうち、2名はアジア出身でした（中国人の方1名、韓国人の方1名）。アジア出身の方々が海外の事務所で奮闘しているのを目の当たりにしたことも、大きな刺激を受けたことの一つでした。

なお、この事務所では、日本人も採用したいようですが、中々日本人の応募がないようです。欧州で働きたい方がいらっしまし

たら、デンハーグにある法律事務所を訪ねてみるのもよいかもかもしれません。



現地代理人とランチしたレストランのある街並み

4. おわりに

オランダでの旅程自体は順調だったのですが、出発直前になって帰りの飛行機が欠便するというハプニングがありました。当初フランクフルト経由（乗継時間2時間程度）で帰国予定だったのですが、航空会社から代替便として提案されたのが、インドのデリー経由（待機時間10時間）で帰国する便で、日本に帰国するまでに30時間かかるというものでした。最終的にはこのデリー経由の便で帰国することになり、ここでは書き切れない様々なトラブルがあったのですが、何とか無事に日本に帰国することができました。

久しぶりのオランダ出張を振り返ると、多くの刺激を受けるとともに多くの学ぶ事項があったように思います。この海外出張によって得た知見を、今後の業務ないし業務に取り組む姿勢に大いに生かしたいと思います。

筆者紹介

田中 智典

弁理士。2003年弁理士登録。2006年TMI総合法律事務所入所。特許を専門とし、特許出願、係争業務を含めて特許関連業務を幅広く担当。